

毎年、「日本小児血液・がん学会学術集会」並びに「日本小児がん看護学会」と共に開催させていただいております、公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムも、今年で第 20 回を迎えます。

「公益財団法人がんの子どもを守る会」は、その設立当初から小児がんの患児・家族の立場から、小児がんに関する様々な活動を展開してきておりますが、その活動にとって学会をはじめとした医療者の方々のご支援と連携は無くてはならないものであり、両学会のご協力を得て長年に亘り開催してきております公開シンポジウムは、会の諸活動の中でも大変重要な位置付けとなっております。

第 20 回を迎える本年は、11 月 29 日(日)午後、山梨県甲府市の甲府富士屋ホテルにて、本学術集会の会長でもある杉田完爾先生と石川眞里子先生に座長をお願いし、「小児がん経験者の伴走者」をテーマとして開催いたします。

小児がんの患児は、病院の中では小児がんの知識をもつ人々に囲まれて過ごしますが、病院の外、社会に出てからは、幼稚園や学校の先生、友人、恋人、配偶者、職場の上司など、さまざまな人々と出会い、小児がんの罹患経験とは関係のない場で親交を深めています。これらの方々を「伴走者」ととらえ、“伴走”の経験をお持ちのいろいろな分野の方々をパネリストとしてお迎えし、小児がん経験者との関わりについてお話をいただきます。

このテーマは、昨年(第 19 回)のテーマ、「大人になる小児がん経験者」に引き続き、小児がんを考えるときの重要なテーマの一つである小児がん経験者のこれからのことを共に考えていこうという企画であり、患児・家族、医療者はもとより、社会の幅広い層の方々にとっても有意義なシンポジウムになるものと期待しております。

併せて、同日の午前には、当会主催のワークショップ「きょうだいの話を聞こうーガイドライン作成に向けて」を開催いたします。このテーマでの三回目のワークショップとなる本年も、患児・家族にとって大きな関心事でありながら、配慮が十分に行き届き難い患児のきょうだいの問題について、広く参加者からのご意見をいただき、来年に発行を予定しております新たなガイドライン策定に向けた議論を期待しております。

更に例年同様、学術集会の期間中には、当会主催による「絵画展」(公開/全期間)、チャリティーマラソン(公開/11 月 28 日(土)早朝予定)、「治療研究助成成果発表コーナー」(公開/全期間)、「関連団体紹介コーナー」(公開/全期間/富士屋ホテルクリスタルサロン)及び、小児がんの専門医師による「個別相談会」(事前申し込み制/非公開/11 月 28 日(土)終日)を開催致します。

また、本年の新しい試みとして、山梨大学医学部附属病院でも行われている木楽舎つみ木研究所による「積み木のワークショップ」(公開/11 月 28 日(土)午後/場所未定)を予定しています。

「公益財団法人 がんの子どもを守る会」が、このようなプログラムを持続的に企画・開催することができますのも、ひとえに両学会関係者をはじめとする多くの皆様の長年に亘るご支援・ご鞭撻の賜物と考えております。

この場を借りて御礼を申し上げますと共に、公開シンポジウム他のプログラムへのご参加をお待ちしております。